

旧友会幹事紹介 ～ 私と三越

1973年に中途入社し三越生活前半の地獄の日々をスタートさせました。あの社長の絶頂期で、最初はファッションシスターズ、次に名作映画劇場、映画「燃える秋」制作、三越レディスオープンの各事務局勤務という名の“パシリ”を経験。加えて軽井沢の「ソン・エ・ルミエール」やシルバーハウスでのショーイベント等々自身のポジションすら分からない過酷な日々が約8年。今でも“軽井沢”はトラウマとなっている。そしてその頃狭い我が家に大量の商品が届くようになり、娘からは「なんでうちには額吊りセットが10個もあるの？」、妻からは「うちに鍋は5個もいらない！」「ミシガン湖のワカサギ？ Why？」等々非難轟々の日々。この時期以降我が家に“男女平等”は存在していない。唯一「ティファニーリング」だけは無事にスルー…。1982年嵐のような騒動は去り、「文化展担当」を退職まで担当させていただくこととなります。メディア関係者を含め多くのアーティストや識者と交流する機会に恵まれ、34年間の三越生活にピリオドを打ちました。

結局店舗も部も異動することはありませんでしたが、デパートメントストア宣言以降、店舗運営に文化展を組み込んできた三越の歴史の一端を担うことが出来たことは無上の喜びであり、その機会を与えてくれた三越に感謝しています。

現在旧友会で「旧友会だより」の編集に携わらせていただいております。

1973年入社 清水 一郎
会報誌担当

